

3年生修了式、明日は卒業式

3月1日(金)は多くの公立高校で卒業式がありました。私は地元にある岱志高校の卒業式(午前中：全日制、午後：定時制)に参加しましたが、感動的な旅立ちの式でした。定時制卒業式の送辞、答辞の一部要約を紹介します。

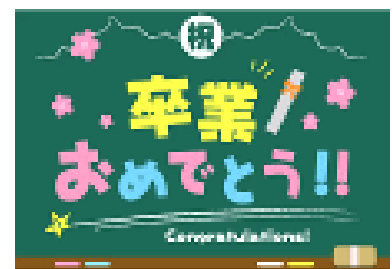
【送辞より】

- ・先輩方は私たちの手本でした。特に印象にあるのが、“定通生体育大会”(高等学校定時制通信制体育大会の略)での他校を相手に堂々とプレーする姿、励まし合う姿から全力で何か1つに打ち込み、仲間を思いやり、助け合う大切さを学びました。
- ・生徒会活動で印象に残っているのが、荒定祭です。運動が不得意な人も楽しめるようにと、レクレーションへ大きく変更されました。不安もありましたが先輩方のリードで成功しました。本校に代々受け継がれている“荒定ファミリー”という言葉のように全員が家族のようになった瞬間でした。社会人になっても“荒定ファミリー”の4年間を思い出し困難を乗り越えてください。私たちも先輩方が引き継いだ“荒定ファミリー”精神を受け継ぎ、また次へと伝えます。

【答辞より】

- ・4年前、期待よりも大きな不安を抱えて入学しました。しかし、学校生活が始まると、声をかけてくれるクラスメイトや、雑談に付き合ってくれる先生方に迎えられ、不安は消えていきました。
- ・学校生活は“荒定祭”などの行事でみんなと盛り上がり、“定通生体育大会”では一致団結して戦い、定期考査で力を発揮しました。みんなと出会って良かった。心からそう思います。
- ・在校生の皆さんには何かを創り上げたときの感動を感じてほしいと思います。新しいことにチャレンジするのは、新しくアルバイトの面接に応募するのと同じで、ちょっと勇気が必要です。でも、チャレンジしたことで得られる達成感は格別なものです。先日のボーリング大会、新生徒会メンバーの活動する姿、ちょっと恥ずかしそうにしていたましたが、かつこ良かったよ。これからも新たな形に挑んでください。
- ・私たちが充実した毎日を送ることができたのは、先生方の支えがあったからです。授業だけでなく、忙しい中に部活動の全国大会に出場するための準備や応援をしていただきました。そして、たくさんの元気をいただきました。全国大会出場を誰よりも喜んでくださったのが本当に嬉しかったです。
- ・また、辛かったとき、「どうした？」の一言に何度も助けられました。感謝してもしきれません。私にとって先生は、私が知らない自分の一面に気付いてくれました。冗談ばかり言う先生でしたが、素直に話すことができました。面接練習で自信喪失のときに、「あなたならいける！」という言葉をかけていただき、今でも心に残っています。この言葉を信じて就職試験も無事合格できました。
- ・私が4年間を過ごした岱志高校は、温かさで感謝の気持ちで溢れています。苦楽をともにしたクラスメイトと共に、この岱志高校を卒業できることを本当に誇りに思います。ここで一緒に過ごしたクラスメイトは最高の仲間です。これからは私たちの行く末を温かく見守っていただければ幸いです。終わりに家族のように温かいこの岱志高校定時制の更なる発展を祈念するとともに、次の言葉を述べて答辞とします。“岱志高校定時制ありがとう”

岱志高校のように生徒が誇りを持って卒業できる学校が地元にあります。素晴らしいと思います。明日の卒業式でも感動的な場面が多くあると思います。明日1年生は登校しませんが、自宅等でこれまでお世話になった先輩に思いを馳せて、祝う気持ちで3年生を送り出してください。



卒業生に最後の話

1日早いですが、卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

私は今年度、たくさんの感動をいただきました。「自立型人間の育成」という学校教育目標のもと、皆さんは「we can do it! ~無限大の可能性を信じて~」という生徒会スローガンを考え、様々な挑戦をしてくれました。

日々の生活の中における委員会活動はもちろんですが、5月の体育大会、6月の生徒総会、各部活動の中体連夏季大会、10月の中体連駅伝競走大会、文化発表会、11月の人権学習、生徒会選挙などを職員と一緒に企画実践しました。その結果として、玉名荒尾地区での活躍から熊本県にとどまらず、九州までその活躍を広げた人もいました。

地域の方からも「新聞などで三中の活躍を知ると元気が出ます。」という声をいただきました。3年生の活躍が、保護者や地域の皆様に喜びや感動を届けてくれました。この他にも「挨拶が素晴らしいですね。」「登下校のマナーが良いですね。見習いたいと思います。」と、来校された方が毎回のように話されました。後輩たちも3年生の姿を目標として来年度頑張るといろいろな場面で表明しています。まさしく「we can do it! ~無限大の可能性を信じて~」が広がっています。

ところで、世の中に目を向けるとウクライナ侵攻から2年が過ぎました。イスラエルのガザ地区でも争いは続いています。世界の各地で自然災害が多発しています。感染症への対応も状況に合わせて変わっていきます。また、日本では出生数が過去最小の75万人台になったと発表されました。

予測困難な時代ですが、多様化が進み、考え方が変わり、皆さんの活躍の場が世界に広がっているのも事実です。個性豊かな166人の皆さんを世界が必要としています。「好きです三中」で元気を地域に発信したように、これからさらに学習を重ね、世界にパワーを発信し、明るく楽しい世界になるように私たちと一緒に頑張ってもらいたいと思います。

旅立ちにあたり、餞の言葉を贈ります。荒尾市出身の詩人、坂村真民先生の詩です。

| 「鳥は飛ばねばならぬ」 | 「花」 | 「七字のうた」 |
|--|--|---|
| 鳥は飛ばねばならぬ 人は生きねばならぬ 怒濤の海を 飛びゆく鳥のように 混沌の世を生きねばならぬ 鳥は本能的に 暗黒を突破すれば 光明の島に着くことを知っている そのように人も 一寸先は闇ではなく 光であることを知らねばならぬ 新しい年を迎えた日の朝 わたしに与えられた命題 鳥は飛ばねばならぬ 人は生きねばならぬ | 何が 一番いいか 花が一番いい 花のどこがいいか 信じて 咲くのがいい | よわねをはくなくよくよするな なきごといな うしろをむくな ひとつをねがいひとつをしとげ はなをさかせよ よいみをむすべ すずめはすずめ やなぎはやなぎ まつにまつかぜ ばらにばらのか |



※私は今年度から隔週で市立図書館に行き本を10冊ずつ借りています。そこに坂村真民先生の本の葉が置いてあります。いつも2枚ずついただいています。上記の詩はそこにあった詩です。最後にもう一つ、「よい本を読め よい本によって己れを作れ 心に美しい火を燃やし 人生は尊かったと叫ばしめよ」という詩にも心が動かされました。